長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者　後藤隆徳

年月日　　平日＝２００８年０７月１０日（木・晴）
　　休日＝２００８年０７月２０日（日・晴）

回　数　　２００７期＝第１５回巡礼・２２名（現地参加１名）
　　２００８期＝第３回巡礼・１５名（現地参加１名）

巡礼寺・順　　● 六十二番札所　法伝寺　（ほうでんじ）

* 本尊・聖観世音菩薩
* 山号・石屏山
* 臨済宗（建長寺・末寺）
* 草創・不　明
* 開創年代は不明です、当初は真言宗で大窪と言う所にあった。1624(寛永年間)僧・松屋が現在地に移し、臨済宗に改宗する。
* 法伝寺は無住職のため、ご朱印は五十八番・正眼寺にて頂く。
* 無住職寺

● 六十三番札所　保春寺　（ほしゅんじ）

* 本尊・虚空蔵菩薩
* 山号・五峰山
* 曹洞宗（太梅寺・末寺）
* 草創・1492-1505(明応・文亀)
* 開創年代は不確定です、山本長門守道政により、創立した真言宗の寺であった。後に太梅寺四世僧・秀禅により、曹洞宗に改宗する。
* 笠地蔵あり。
* 境内の鎮守天満宮は、間口１１０Ｃｍ、奥行・高さ共に１４０Ｃｍの小堂で「伊豆の小市」と言われた「鈴木市五郎」の見事な彫刻が施されている。
体が小さいので「小市」と呼ばれた市五郎は、文政４年（１８２１年）加納の生まれの宮大工で修行、築地本願寺を手掛け、その才能は高く評価された。
（この項、伊豆八十八ヶ所霊場こころの旅から抜粋）

● 六十四番札所　慈雲寺　（じうんじ）

* 本尊・釈迦如来
* 山号・金獄山
* 草創・曹洞宗（香雲寺・末寺）
* 草創・不　明
* 開創年代は不明です、創立当時は慈雲院といい、真言宗の寺であった。後に衰退していたのを、香雲寺五世僧・為長により再興される。
* 岩谷観音が合祀してある。伊豆横道二十七番札所。

● 五十一番札所　龍雲寺　（りゅううんじ）

* 本尊・阿弥陀如来
* 山号・青谷山
* 曹洞宗・（下田・曹洞院・末寺）
* 草創・不　明
* 創立年代等は、一切不明ですが、当初は真言宗で1558-70(永禄年中）曹洞院三世・僧了堂により、曹洞宗に改宗され現在に至る。
* 無住寺院の為、御朱印は自分で押し納経料は賽銭箱へ。
* 寺入り口参道横には、天神社があり、学問の神・菅原道真公を祀る。参道周辺には四国八十八ヶ所や諸国・伊豆参拝の納経などの奉納の石塔・供養塔が数多く見られる。ただ、石仏・地蔵など明確な記録はない。（こころの旅）

● 五十〇番札所　玄通寺　（げんつうじ）

* 本尊・観世音菩薩
* 山号・古松山（小松山でない）
* 曹洞宗・（下田・大安寺・末寺）
* 草創・草創・1396(応永三年)以前
* 創立年代は、不明ですが、玄翁心昭(大寂院法王禅師）により下田との境の小松野山頂に創建された、
玄翁は応永三年一月七日没、なので草創はそれ以前です、
山頂では不便な為、
1912(明治四十五年）現在地に移転する。
* 無住寺院の為、御朱印は六十三番・保春寺で頂きます。

● 六十五番札所　最福寺　（さいふくじ）

* 本尊・観世音菩薩
* 山号・田村山
* 曹洞宗（大安寺・末寺）
* 草創・草創・1500（明応九年）
* 創立当時は普済庵といい、真言宗の寺であった、後に、大安寺三世僧・孝孫により曹洞宗・最福寺と改める。
* 無住寺院の為、御朱印は四十三番・大安寺で頂きます。

距　離　　約２Km ＋約２Km＋約２Km＋約４Km＋約３Km ＋約２Km＝約１８Km

タイム　　下土狩５：４０－入間―海蔵寺上発８：２５－法伝寺８：５５～９：１０－保春寺（法話）９：２５～１０：１５－慈雲寺１０：３０～４０－龍雲寺（昼食・昼寝）１２：１５～１３：３０－玄雲寺１４：２５～４０－最福寺１５：１０～２５－銀の湯１６：００～１７：３０－下土狩１９：４０

温　泉　　下賀茂「銀の湯」（９００－×団体割引０．８＝７２０－）

その他　　法話＝保春寺（平日・休日共２０００－）
引用文　　関係のＨＰから引用しました。

今回も天気は良い。いよいよ暑い季節が始まった。予定通り入間入口から出発。

長い下り坂を行くと右手に「蓮」の畑が広がり、淡いピンクの花を咲かせていた。皆さん興奮気味でシャッターを切っていました。

ここで問題です。お釈迦さまの台座の花は何故「蓮」の花なのでしょうか？

・・・泥水が濃ければ濃いほど、はすの花は大輪の花を咲かせます。泥水とは人生におきかえれば、つらいこと、悲しいこと、大変なことです。ほとんど泥水ではなく、真水に近いようなきれいな水である場合、蓮の花は本当に小さな花

法伝寺

しか咲かせません。大輪の花を咲かせるためには、ものすごく汚い泥水が必要です。蓮の花は泥水の中からしか立ち上がってこないのです。お釈迦さま は うつくしい花を咲かせるためには泥は必要であるということを伝えたかったようです。私たちはいろいろな悲しみ・つらさ・大変なことを経験しない限り、悟ることはできないという教えです・・・

路傍に「半鐘」があった。高い櫓（やぐら）でなく、高さ２mほど。見れば入間の「・・・海蔵寺・・・」と刻印が認められた。

ここから少し下り右手に入ると法伝寺。ここは無住職だが本堂は開いていた。中は綺麗に掃除されていた。おそらく、檀家の方が交替で掃除をしているのだろう。本堂で読経を行う。

保春寺に向かう。オジサンが草刈機で畑仕事をしていた。刈っている植物は、「ソルゴ」といった。ＩＮ（インターネット）で検索すると、「障壁栽培」と言って例えば、ある作物にアブラムシが沢山発生して困るとする。

そこでアブラムシを食べる虫が発生する「ソルゴ」を植えると、退治出来る、と言うもの。一種の有機農法である。

途中、田んぼに可愛い「カルガモ」がいた。これも有機農法。近づくと一斉に慌てふためき逃げて行き、その仕草が可笑しく皆で爆笑。

二条を過ぎ左手に保春寺が見えた。なかなか立派なお寺。山門の左手に笠を被ったお地蔵さまが佇んでいた。境内の「鎮守天満内宮」は「伊豆の小市」こと、鈴木市五郎の作で見事な彫刻が施されている。

保春寺　勝田秀弘住職

保春寺

珍しい笠地蔵さま

挨拶に行く。住職の奥様は若く綺麗な方だった。

お経の後、今日はここで法話を戴く。住職も奥様同様若い方だった。お話はまず「六度」について話された。「六度」とは

・・・仏教(釈迦の教え)を簡単に言えば、悩み苦しみの満ちたこちらの岸(此岸・しがん)から安らぎの向こう岸(彼岸・ひがん)に渡ろう…ということになります(六度の**度**は**渡**と同じ、**わたす**の意味です）。

仏教の生まれ故郷であるインドでは、一般的に川幅が非常に広いのです。こちらの岸辺に立って見ても向こう岸を見る事ができないくらいです。

そして今の日本では想像がつかないほど、その頃の一般民衆の生活は苦しくつらいものでした。もちろん精神的な苦しみ、つらさ、ということに目を向けるならば昔のインドも現在の日本もそれほど変わらないかもしれませんが、向こう岸(**彼岸…ひがん・かの岸**）に素晴らしいところ、ユートピアがあるに違いないという**向こう岸へのあこがれ**は、見えないだけにずっと強かったにちがいありません。仏教の、**此岸と彼岸という考え方**の根底にはそんなことがあるのです。

さてこちらの岸から向こうの岸へわたるためには、渡し舟に乗らなければなりません（便利ですぐに渡れる橋は有りません）。その六つの渡し舟が六度（または六波羅蜜・ろくはらみつ）です。その六つとは・・・

布施（ふせ）・・・・・・あまねくほどこしをする事。

持戒（じかい）・・・・・きまりをまもる事。

忍辱（にんにく）・・・・苦しい事に耐え忍ぶ事。

精進（しょうじん）・・・頑張る事

禅定（ぜんじょう）・・・静かな心を保つ事

智慧（ちえ）・・・・・・布施～禅定の五つを実践する事によって出てくる考えの事。

また、布施は「無財の七施」がある。

六度（または六波羅蜜）のことをお話しましたが、その六度の第一が『布施』でした。お寺の方からは『法施』、在家の方から『財施』をするのだとお話ししました。つまり一般の人々は、持っているお金や財産をだれかれに、と区別せず『ほどこす』ことが布施であるわけですが、お金や財産やなくてもできる布施、つまり『無財施（無財の七施）』をご紹介しましょう。

１．眼施（げんせ）・・・・・・暖かい、優しいまなざしで人に接すること。
２．和顔施（わげんせ）・・・・和やかな、微笑みのある顔つきで接すること。
３．言辞施（ごんじせ）・・・・思いやりのこもった暖かいことばをかけてあげること。
４．身施（しんせ）・・・・・・礼儀正しい振る舞いや、身をもって奉仕を行なうこと。
５．心施（しんせ）・・・・・・心のこもった思いやりの心で接すること。
６．床座施（しょうざせ）・・・寝床や座席を提供すること。
７．房舎施（ぼうしゃせ）・・・気持ちよいもてなしをしてあげること。

以上の法話を胸に刻み保春寺を後にする。二条川に沿ってブラブラ進む。適当な所で二条川の橋を渡り慈雲寺に入る。

この寺は住職がいるが不在だった。奥様が朱印を押してくれた。ここには「蝦蟇」（がま）伝説があり、庭に大きな蝦蟇像があった。ただ、休日巡礼は寺で行事があり中に入れず、山門前で読経を行った。

再び二条川を渡り、青市の龍雲寺目指す。この時刻になると太陽がギラギラで気温は一気に上昇。苦しい巡礼となる。休日巡礼の時、ここで前を歩いていた、何処かのオジサンが、よろめいたと思った瞬間左の側溝にモロに落ちてしまった。

腕や足を擦り剥き血が出ている。再び立ってもフラフラして危ない。何処の誰を聞いてもハッキリ答えない。このままでは危険なので、私の携帯で１１０番し保護を依頼。

しかし、通りかかった軽トラックが、近くの施設の方ではないかと、送ってくれた。まあ、その後何も連絡がなかったので無事帰着したようです。

慈雲寺

龍雲寺とお昼寝タイム

ダラダラと長い坂を上って行く。途中の木陰でひと休み。休日巡礼では、この先で、下田のＳさんが左手の路傍に佇む石碑の説明をしてくれた。詳しいことは、鈴木さんの下記のサイトをご覧下さい
http://kodou.lolipop.jp/hime-kodou.htm

龍雲寺も無住職寺。今回は六寺で四寺が無住職。過疎・人口減・檀家減等が原因だろうか。いずれにしても無住職寺は、訪ねても張り合いがない。
平日・休日とも、読経を終え、昼食を済ませ、風通しの良い本堂で無作法ながら「お昼寝タイム」。涼しくて涼しくて、サイコーの時間でした。

再び暑い中の巡礼が始まる。峠の八声トンネルを越えて一条に向かう。ここは春の「タケノコ」で有名なところ。
坂を下りて行くと左手に玄通寺が見えた。階段を上がり本堂に導かれる。
中はまあまあ綺麗だった。ここも住職不在で、何となく短時間で終了。
次の最福寺は、更に坂を下り青野川の合流点にある。休日巡礼は本堂が開いていなかったので、境

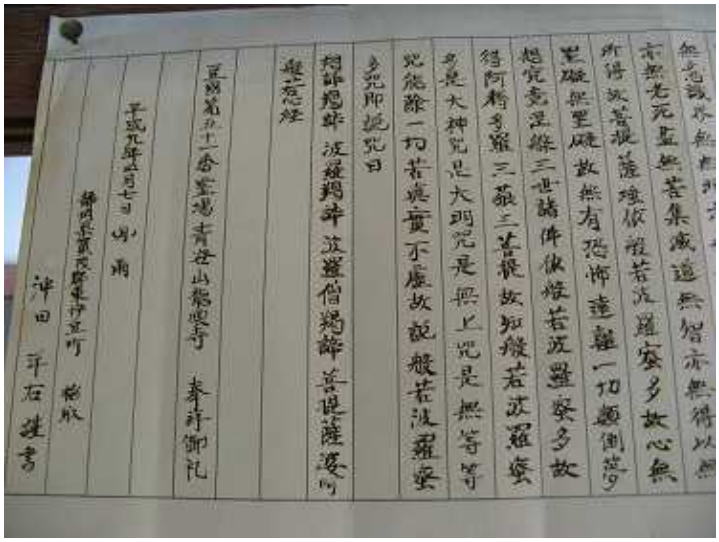
玄通寺

内で読経した。

　時間は早く「もう、いっちょう」の声もあったが。ここは無理をせず、本日は終了。

　いつものコンビニで、冷たいものを調達し、お風呂に向かいました。

　８月は暑さでお休み。９月から再び巡礼は始まります。合掌



龍雲寺の写経

平日巡礼
最福寺

休日巡礼
龍雲寺